

平成23年度

中間評価結果・事後評価結果

平成23年9月

広島県研究開発評価委員会

目 次

1 評価対象及び評価基準	1
(1) 中間評価	1
(2) 事後評価	1
2 評価結果	2
(1) 中間評価結果の概要	2
(2) 事後評価結果の概要	3
中間評価結果	5
事後評価結果	13
参考資料	
1 広島県研究開発評価委員会設置要綱及び委員名簿	39
2 広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ名簿	40
3 経 緯	41

1 評価対象及び評価基準

県立総合技術研究所の研究課題について、「広島県研究課題評価マニュアル」に基づき中間及び事後評価を実施し、その結果を取りまとめた。

(1) 中間評価

評価の実施を通じて、当初期待された成果獲得の可能性を検証し、進度調整に必要な措置を行うため、進捗状況、目標達成の見通し、ニーズ変化等について評価し、事業継続の適否を判断する。

中間評価は、事前評価と異なり、各研究課題について継続か中止かを判断するための評価であることから、評価委員会は、大項目ごとに継続、中止の基準点（原則2点）を付して、評価結果をまとめる。さらに、各研究課題に対し、次年度の研究計画に反映させるべき意見を付与する。

なお、事前評価の充実、研究所での進行管理、追跡評価の導入等を踏まえ、平成20年4月にマニュアルを改正し、原則として、研究期間3年の課題は中間評価の対象外としている。

【評価対象】

研究期間が4年以上で、21年度に開始し、24年度以降に終了する課題 1課題

【評価基準】

研究の継続／中止の基準点：2点

(2) 事後評価

事業終了後の適切な時期に研究目標の成否、技術移転又は技術普及の状況、波及効果等について評価する。

事後評価における結果は、終了した研究課題が、県の事業として実施したことの妥当性を判断するための資料であるとともに、次年度以降の県の研究開発事業の方向性を決定する際に重要な役割を果たすものである。また、関係部局、各センターに事後評価結果をフィードバックすることにより、今後の研究計画の策定及び実施における高付加価値化や効率化に寄与するものとする。

【評価対象】

22年度に終了した研究課題 10課題

【評価基準】

概ね目標を達成したものが標準：3点

- 5点 目標を大幅に上回って達成
- 4点 目標を上回って達成
- 3点 概ね、目標を達成
- 2点 目標を下回り、達成できなかった
- 1点 目標をほとんど達成できなかった

2 評価結果

(1) 中間評価結果の概要

○中間評価結果は、表1のとおり、各評価項目（県民ニーズ、技術的達成可能性、事業効果）で、継続・中止の基準点（2点）を大きく上回っており、「継続する」という評価であった。（評価点については7ページの「中間評価結果一覧」を参照のこと。）

なお、中間評価の県民ニーズ、事業効果は、事前評価を行った時点と比較して、変化がない場合を3点とし、増減を評価している。

○評価点は中間評価結果一覧のとおりであるが、評価項目別にみると、当初計画と比較して県民ニーズ及び事業効果ともに増大している（県民ニーズ〔質的・量的変化〕：4.0点、事業効果：3.7点）との評価であった。

○次年度の研究計画に反映させるべき意見を表2のとおり付した。その主な内容は、事業効果の向上を図るための研究及び技術移転の進め方に係る意見である。

○今回付した意見を基に、研究方法や研究・普及計画等について十分な検討を行い、研究課題を取り巻く状況に対応した、より高いレベルの研究内容としていく必要がある。

表1 中間評価結果の概要

センター名	研究課題数	評価結果		
		継続	うち、意見を付した研究課題	中止
保健環境センター	—	—	—	—
食品工業技術センター	—	—	—	—
西部工業技術センター	—	—	—	—
東部工業技術センター	—	—	—	—
農業技術センター	—	—	—	—
畜産技術センター	1	1	1	0
水産海洋技術センター	—	—	—	—
林業技術センター	—	—	—	—
合計	1	1	1	0

(注1) 複数の機関が実施する共同研究については、中心となる機関の研究課題として記載した。

(注2) 中間評価対象課題の見直しにより、昨年度との単純比較はできない。

表2 中間評価対象研究課題と意見の内容

研究課題名	センター名	意見種別	意見の内容
濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜技C	技術的達成可能性	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進行管理に努め、当初計画期間内に研究を完了すること。 濃厚飼料の節約効果を数値で表示したり、乳生産増加傾向が何と比較して得られるのか明確に提示できるよう研究を進めること。
		事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 飼料費に対する試算において、実際の価格と開きがあると思われる。生産者と意見交換を行いながら研究及び技術移転を進めること。

(2) 事後評価結果の概要

- 評価対象の10課題それぞれについて、3つの評価項目（県民ニーズ、技術的達成度、事業効果）ごとに評点（1～5点）を付し、その平均値を評価点として算出した。
- その評価結果の概要は、表3のとおり。全ての課題で評価点が標準の3点以上であり、そのうち目標を上回る4点以上となった課題は、1課題であった。
- 各評価項目に関する10課題の平均点は、

県民ニーズ	3.5点	(3.3～4.3)	【平成22年度	3.5点】
技術的達成度	3.5点	(2.7～4.1)	【平成22年度	3.4点】
事業効果	3.1点	(2.7～3.8)	【平成22年度	3.4点】

 であり、昨年度と比較すると県民ニーズ及び技術的達成度については、ほぼ同様の結果となったが、事業効果では、課題別で3点以下の課題が3課題あり、平均点も昨年度を下回った。
- これらの結果を十分吟味した上で、今後の技術移転を計画的に進めるとともに、新規研究課題の策定にあたっては、適切な県民ニーズの把握、適切な研究目標の設定及び相応する事業効果について検討した上で、県が実施する意義を明確にした研究課題とすることが望まれる。
- 各課題の評価点は、表4及び15ページに示す。

表3 事後評価結果の概要

センター名	研究課題数	評価結果(5点満点)			
		4点以上	3点以上 4点未満	2点以上 3点未満	2点未満
保健環境センター	1	0	1	0	0
食品工業技術センター	1	0	1	0	0
西部工業技術センター	1	0	1	0	0
東部工業技術センター	0	-	-	-	-
農業技術センター	4	1	3	0	0
畜産技術センター	2	0	2	0	0
水産海洋技術センター	0	-	-	-	-
林業技術センター	1	0	1	0	0
合計	10	1	9	0	0
(参考) 平成22年度	10	1	9	0	0

注1 複数のセンターが実施する共同研究については、中心となるセンターの研究課題として記載した。
 注2 評価点は、県民ニーズ、技術的達成度、事業効果の3つの評価項目に関する評点の平均値で、3点を標準とする。

表4 研究課題ごとの事後評価結果

センター名	研究課題名	評価点
保健環境センター	ヘルスクライシスに關与する微生物の包括的検出法の開発	3.6
食品工業技術センター	大豆発酵物の機能性解明とその利用技術の開発	3.1
西部工業技術センター	FET（電界効果型トランジスタ）一体型高感度センサの開発	3.1
農業技術センター	産地活性化を狙った県独自性の高いカンキツ類の新品種育成	3.3
農業技術センター	温州ミカン「石地」の早期多収を目指す主幹形栽培技術の確立	3.3
農業技術センター	イチジク'蓬菜柿'の安定生産を実現する株枯病の画期的防除技術の開発	3.0
農業技術センター	ハウレンソウの難防除害虫ハウレンソウケナガコナダニ総合防除法の開発	4.0
畜産技術センター	乳用牛性判別胚の生産技術の開発	3.2
畜産技術センター	クローン検定の効率化を目的とした遺伝情報付加胚生産技術の開発	3.1
林業技術センター	「低コスト林業団地」における効率的な路網計画策定技術の開発	3.9